（十七日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭 第一 第三日曜
定價〔壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢〕
廣告料〔一行卅錢指定廿錢增〕
發行兼編輯印刷人　遠沼韶輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

小説

霧を超ゆる者

(66)

三上於菟吉作　布施平八郎畫

血を吸ふ獸（五）

彼の女はさう言つて、簞笥の置いてある次の間の方を眺めて立ち上がらうとした。

ほかの場合ならば、間は腰を立たうとする彼の女を引とめたかも知れない。而し今は、彼れ獨特の不思議な[illegible]に落ちて居た。彼は向ふへ行く彼の女の

[illegible]つていたが微笑を細い眼[illegible]せながら眺めて居た。

とき子は、次の間へ來た。そこには、ほんの手廻りの物を入れる金金具の手筐筒が置いてあつた。それには、本地一面に秋草模樣がしやく銅と銀とで象眼されてゐた。とき子は、二番目の小さいひきだしを開けた。そして、五つ六つの赤や綠色のサックを取出した。

彼の女がそれを、老たる良人の前にもたらした時、老紳士は丸つの會社の重役[illegible]しむる足り綿密さを以て、一つ一つ開いて見た。丹念な眼は一つ一つのサックのうちに美しいビロードの寶座のうへにきら〳〵と輝く貴重品を見出したとき細められた。

「ほゝみんなある」と彼れは安心したやうに笑ひながらいともくわいくわつにさけんだ。

そこには今自分の心にうかんだ卑しい邪念をはぢるやうなものは少しもなかつた。彼れはたゞ滿足した言葉をついだ。

「どうしてあんたははめないのちや？」

「でも」と、とき子は口ごもつた。

「やつぱし、しまつて置きたいのか？」

大實業家には。大實業家らしい考へがあつた。とき子が指わをはめずして、手筐筒の底ふかくをさめて置いたことは、今や彼の心を一層喜ばせたのであつた。

「だが、やつぱしはめるが好い。誰の爲にかざるより私の爲にかざつてもらいたいもんちや」と彼はにこ〳〵としながら、頗る安心らしい顔つきでひとり笑つぼに入つたやうに

とき子は、再びあの毒虫の眼を指につけねばならぬかと思つて、戰りつを感じながら、細い弱い兩手を固くにぎりしめた。けれども其時彼の女のためには思ひかけぬ救ひがあつた。

らう下から謹み深い足音が聞こえて、あせた紺がすり單衣に、黄縞の小倉はかまをはいた老家令の大木が姿を現した。

彼は小腰をかゞめた。

「御前、お客さまでございますが……」

「誰ちや？」

「番町樣でございます」

「よし、待たせて置け」と間は言つた。そして老家令が立去る姿を見送りながらとき子に言つた。

「また、晩にゆつくり話さうね。待つてお出で」

とき子はしとやかに頭を下げた

老主人は去つた。

「お母さま……」と、とき子はたゞ一つ指に殘つてゐる細い金線にかこまれた小さな白い珠に接つけながら熱く悲しくさゝやいた。そして右の手に載せられて居た他のサックは、微な音を立てゝ露縁のうへにこぼれ落ちた。

日はすつかり暮て了つた庭の青い瓦斯が光りを增した。とき子は、其の光をうるんだ眼で傍なく眺めながら、しばしたゝずんでゐるのであつた。

曆日の吉凶

新曆八月十八日　舊曆七月十四日

▲一白　社交上にも我が財力を誇へざれば窮すべし
▲二黑　交換する文書は注意せざれば憂ひの種となる
▲三碧　非常の困難に逢へども退守すべき日に非ず
▲四綠　表は無事に見へても內に憂ひの潛み居る凶日
▲五黃　人と競爭するときは結果は失敗に終るべし
▲六白　次第〳〵と外界に伸び行く日物始めに吉
▲七赤　自重して進めば大吉横車を押せば失敗あり
▲八白　調和を破らぬやうに注意し居れば吉日なり
▲九紫　進むも宜しけれども分限を越さぬやう注意

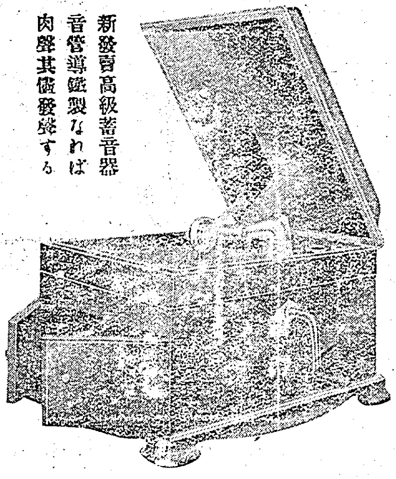
平町田町
高久病院
電話五一〜三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
内科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科

◎診療開始
耳鼻咽喉科專門
日本醫大醫學士院長　鈴木正男
齒科口腔外科
日本齒科醫學士科長　高橋正永
◎晝夜診療
下谷區入谷町二九一
入谷改正通り東交番前六間通り
鈴木醫院

更新の意氣滿天下を壓す。我等の快男子が面目
名篇
沓掛時次郎
說明　石井孝
巨星大河内傳次郎復歸第一回快心の大傑作品
名優澤正が最後演出と[illegible]次郎の憤然と記念すべく心血を注げる名畫
原作……長谷川伸先生　監督……辻吉郎氏
助演者……酒井米子　葛木香　尾上桃華　中山介次郎
舊十三日替り
十三日ヨリ五日間　晝夜二回公開
プログラム
◇松竹作品林長二郎主演映畫の白眉
吹雪峠
千早晶子・關操助演
淺ましき人の世の姿を描いて盡す湧き出る痛ましき哀調の劍と戀の繪卷
說明　林樂遊
帝劇ソプラノ名花
天野美奈子孃
獨唱　沓掛小唄。紅屋の娘
◇日活作品
紅屋の娘
親に對し私し達がどんなに孝行しても親達が私し達に與へてくれた聖愛から見る時、あまりに小さいものである
瀧花久子・一木禮二　主演
說明　若月柯村
入場料　二等席大・四〇　壹等席大・五〇　特等席大・六〇
日活　松竹
平館
電四六六

割烹
末廣
電話四三一

各社八月新譜全部揃いました
海に山に避暑の旅に
新たに生れたコロンビア手携蓄音器を
御買求めは今！
御用命は是非皆樣の三幸堂へ
新發賣高級蓄音器
音管導鐵製なれば
肉聲其儘發聲する



特價三十五圓也
蓄音器レコードは何んでも揃ふ店
遠路の方はハガキで御注文下さい、壹枚でも送ります
お子樣レコード新製法
電氣吹込一枚三十五錢
ビクター會社
コロンビア會社
平販賣部
平町二丁目
三幸堂

不老長生の若返り法
卽ち食慾を增し消化を助け血を增し肉を肥して元氣健康を增進する蜂ブドー酒の食前常用こそ最も手近な不老長生の若返り法！
美味滋養
蜂ブドー酒
ハチ
シュ
4-68

內科、小兒科
花柳病科
入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町
電話平局五〇七番

新築落成
耳、鼻、咽喉科
氣管食道科〔專門〕
平町南町（舊診療所向電一七〇番）
大和田醫院
大和田郡司
自炊の便あり

貸地廣告
平町郡役所より税務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり戴けば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話　六〇三番　五四一番

外科一般（入院隨意）
內臓外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
本村外科醫院
電話三〇九

入院隨意（自炊の便あり）
X光線科
外科專門
平南町
上田外科醫院
電話一二九

電氣吹込　新製法
オリエントレコード
（新譜）大阪行進曲（兩面一枚金一圓也）
逢ふにや明るし道頓堀は
ジャヅに浮かれて人目を忍ぶ
甘い酒のみや櫓の上に
芝居もどきの月が出る
蓄音器の修繕は安く良く早く
特約店　**大谷時計病院**
電話一一九番

愈々お盆の蓋明く

今夜から向ふ三日間

焚松の中をヂヤンガラ團

歡樂に醉ふ若人達

盆が來たのにおどらぬ奴は木佛金佛石佛——と唄はれる盆もいよ／＼今夜からだ、冬は陰うつな空に閉ぢ込められ雪消となれば花見る暇もなく春闘に耕し世は月を愛づる秋になれば日ごとに短くなる日あしを氣遣ひながら終日出來　秋の收穫に忙しい、こうした農民の生活に年一度の肩休め時だ文化の前線を行く人都會人の目にはあまりにも粗野かゝつた情緒であらうともこちらの町あちらの村に櫓仕掛けのやぐのがあがり、夜を徹して踊太鼓が農村の花人をやたら無性に躍り起せる新しい浴衣、新しい下駄　親の目も　舅姑めの目もあらばこそ、天下晴れての日遊び夜遊び「お月さまさへ夜遊びなさる俺の夜遊び無理もない、鎮守の森のなかたから、月の出から月の入りまで踊れよ狂へよ農村の花人達、盆が來たのだ各地まち／＼な習慣がけふから三日間賑ふ事となつた

今夜から賑ふ

平の松焚き

消防組で警戒

平町の舊暦宇羅盆はけふから三日間催される事となつたが恒例による松焚きは十四日から各町內の通りに午後六時から一切に焚かれ全町は火の海と化し農村から繰り込むジャンガラ念佛團や押し寄せる觀衆で年一度の雜踏を呈するので平署では自動車の交通を遮斷し消防組では火災その他萬一を警戒の爲出動する筈

戀の二十娘

劇藥自殺

情夫の病を苦

石城郡川部村沼部義虎二女ヤヲヨ(二〇)は同村櫛田廣治が平町共濟病院加療中なので看護に來てゐたが十五日午後七時頃昇汞を嚥下して苦悶を始め十六日朝遂に死亡した同人は一昨日磐城高等女學校を卒業し櫛田は法政大學在學中の者で兩名は戀仲となり親達も戀愛關係を認め將來は夫婦になることは確定的のものとなつて來たのであるが男は病氣にかゝり容易になほらぬので悲觀してゐた矢先十三日實家が養蠶で急がはしいからと呼び戾され男の側を離れねばならなくなつたため悲觀極度に達し自宅から蠶室用の昇汞水を持ち出して十四日病院に歸り十五日の夕刻嚥下自殺を企てたもので同夜は男をつれ出して散歩をなした由で或は情死を企つる考へであつたと言はれてゐる

漫畫　富士登山（八）

平から平まで

下山の巻

平三　山田生畫く

暗夜に三里の難路を辿る

美人を携帶して二合五勺の小屋に着いたのはもう午後の七時、暮色蒼然として遠く裾野の彼方より迫つて來た

□

Tさんはそこに腰を下ろして待つてゐた、大分疲れたらしい、腰が痛んで食べ物がのどを通らないといふなさけない次第だ

やはり落伍組の若者數名がそこに憩んでゐる

乘り物はないかと茶店の主人公に尋ねたら何のことだ乘り物のあるところまでまだ三里あるといふ

成程見れば箱根の山はまだ目の下にあるのだ

日暮れて道遠し、泣き出したい樣な氣になつた

□

氣を取り直して歩き出したが五六丁も歩いた頃全く日は暮れて足元さい見えなくなつた

女一人男六人の一行富士山麓の森林地帶のくらやみを疲れきつた足を曳きづりながら懷中電燈一箇を頼りに木の根岩角を踏み分けて進むのだ

□

「西南の役の樣だなア」とTさん暗を破つて名句を吐く

灰爐の可愛岳の進軍のあたりを思ひ出したのだ、そんな感じた

九時漸くガタ馬車のあるところに着く、一行七人全部收容され、いや非道い馬車で明治初期のものだ是れでも歩くよりは樂だから誰れも小言を言はない之れから比較すると平の自動車なんか殿樣だ

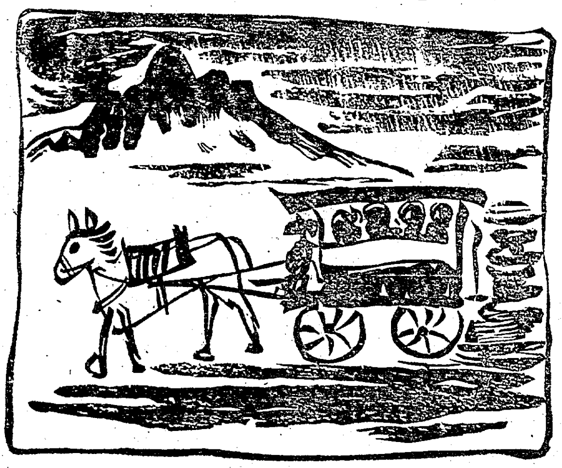
須走りに着いたのは十時半こゝで名古屋の女とも永久の別れを告げて高級自動車で箱根へ……

□

十二時を過ぎて宮の下の奈良屋に着いた、滿員で御氣の毒樣ですがといふ、こゝで斷はれたのでは全く路頭に迷ふ、交渉の結果漸く六疊一間を明けて貰ふ、はしご段を上れない程疲れてゐた

しきりに空腹を覺えてゐたがもう食べ物は何も出來ないといふ、仕方がない御茶うけの羊羹一切とお茶をガブ／＼のんで腹の虫を押へる

一風呂あひて四十二時間ぶりで寢床に横はつた



暗の中を走るガタ馬車

小濱の先例に倣ひ

仁井田濱に投網

縣當局苦境に立たん

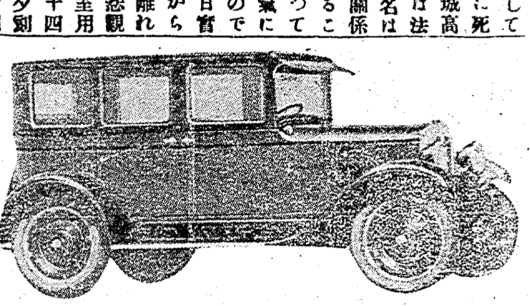
大浦の袋網問題

石城郡大浦村仁井田漁業組合では豫て同地海岸に於ける海底潮流魚族の關係等を調査の結果兩袋瓢網の定置に依り將來有望なるを認めたので過般臨時總會を開き第五定置漁業權の申請をしてゐたが未だ何等の指命なないので十七日更に芳賀組合長から縣に認可促進方を申請しがた縣は過日小濱大敷網が許可の指命を發せざる以前に投網し公然漁業法違反行爲をなしたるに拘はらず何等の處置を採らず漫然同漁業を認可した先例もある事とて同漁業組合では直らに許可を與へるに非らざれば斷然投網を決行すべく準備中であるが縣當局は拾收し得ない立場に陷るものと觀られてゐる

高級の自動車

シボレーセダン型の好評

平地方を風靡



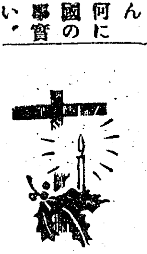
平町地方の自動車業は最近異狀の發展を示し平署管內に於ける乘合自動車のみにて百餘臺を數へるに至つた、而して業界は數の競爭より漸次質の競爭へと移り營業者は全力を擧げて高級車の購入に努めてゐるは事實である安かろう惡かろうの時代は既に過ぎて一般優良なる高級車の需要熱が漸次濃厚となつて來た事は素より當然のことであるが茲に紹介せんとする物の我が六氣筩シボレー號セダン型自動車がある

本春四月自動車界の驚異として斯界を風靡した六氣筩シボレー號は其の實質的價値が好評を博し發賣僅々四ケ月間に本邦に於て既に七千數百臺の賣行きを見、本縣一手特約販賣店たる磐島モーター商會に於ても既に百四十三臺を販賣し斷然斯界を壓倒するの聲價を收めてゐる、磐島モーター商會の大森常務は語る

平町にも愈々六氣筩シボレーセダン型が疾驅する事となつた現に片倉、野崎、平運輸等に受用せられ蛻型は松崎自動車部のハイヤー專用に使はれ非常な好評を博してゐます高尚優美なモダン型が高級ハイヤ用として平町地方に見る事の出來ました事は喜びに耐へません

六氣筩シボレー號が如何に優秀なるかは本年の全國の賣行き臺數の卓絕せる事實で充分御認めが頂きたい

由來平町を中心として磐城地方は一般に車体が古く、事故も多く尊い生命を損傷する事は慨嘆に耐えません一日も早く好評あるシボレー號をより多く營業者に愛用され業者の利益增進と乘客の安全とを期し聊か鄕里の交通文化の發達に資したいと思ひますから何卒御聲援を願上ます」云々（寫眞はシボレーセダン型）



石城のチフス

七十名

必死豫防腐心

平町地方を中心に傳染病が流行してゐるので平警察署に於て各町村役場と連絡をとり豫防方法を講じつゝある處は豫報の如くであるが平署管內に於て本年一月以降半ケ年間に於ける傳染病發生の狀況を見ると合計百四十八名に達してゐる、之を種別にすると最高は腸チブスの六十九名で、次はヂフテリアの五十名、最近猖獗を極めてゐる小兒の疫痢は僅々一ケ月で十四名の發生を見てゐる、赤痢は十四名、猩紅熱は三名、バラチブス二名の割合であるが夏期になつてから各方部に發生猖獗してゐるのは腸チブスと赤痢、それに疫痢等で警察當局では傳染病豫防について全力をあげて宣傳をなしつゝある

給仕募集

年齡十六才迄での男子にして身体強健なる者(平居住)一名至急募集す希望者本人來談

磐城新聞社

巧みな逃走賭博犯

巡査に斬り突く

十六日夜內鄕地內で

捕はれた天狗政

夏井村大字下大越俗稱天狗の政吉こと渡邊政吉(四〇)は一昨年十月平町久保町で賭博を開張中七海巡査に踏み込まれ格闘の上巡査に傷を負はして逃走以來湯本、平町附近に於て賭博を開帳し踏切まれる都度巧みに逃走中の處十六日午後七時內鄕村宮に於て大谷巡査と格闘中ナイフを以て巡査に切つてかゝり又もや逃走せんとする處を附近住民後援を得て捕縛目下平署で取調中である

亂暴自動車

小供を轢き倒す

平町尼子自動車部所有乘合自動車を運轉手鈴木眞治(二〇)が運轉して十五日午後一時頃石城郡湯本町宇天王崎地內縣道を疾走中突如前方を同町字天王崎己之治五女本瀧しづゑが橫切つたのでこれを避けんとしたて間に合はず跳飛ばし全治二週間を要する擦過傷を負はせ運轉手は平署の取調べを受けた

女を毆る

氣の短い若者

石城郡內鄕村大字宮磐城炭礦坑夫渡邊課治(二九)は八日午後七時ごろ同村字峰根矢內なつ(四三)方前の下水ガスカーバイトを捨てやうとしたのでなつは制止した所生意氣だとかすがいを以てなつの頭部その他全身に全治三週間の傷害を與へたので十六日平署に告訴された

教員と青年体育

來る廿日から三日間

磐中で講習會

磐城体育研究會と磐城陽倶樂部の主催に係る体育講習會は來る二十、廿一日、廿二の三日間磐城中學校グランドに於て開催するが申込手續は敎員は學校名、青年は所屬團名に氏名を記入し平第二小學校內磐城体育研究會あてハガキで申込み講習料一圓五十錢を當日持參されたいと因に講師は左の如し

富田本縣主事、佐川福島師範敎諭、佐藤女子師範敎諭、菅家田村中學敎諭、青山東京高師生、齋藤頼母、小野、水本磐中敎諭以下

松島から一筆

前司法政務次官、黨務部長熊谷直太代議士が地方黨情視察の爲め昨夜來松本日宮城支部の午餐會に臨み時局談を拜聽いたし候

五大堂を前に

千葉達治

幹事長草刈

磐城新聞社御中

花澤氏轢かる

平町役場庶務主任會記花澤文庫氏は十六日午後一時四十分頃歸宅の途中胡摩澤地內で自轉車に追突され右手に負傷した、自動車は松崎自動車部運轉手竹林七郎(二二)の運轉せる乘合自動車で目下取調中

本郡沿岸の

鰹豊漁

磐城丸の報告

水產試驗場磐城丸の漁場報告によれば鮫ヶ崎東四分ノ一南二百二十五浬の海區に於て餌付極めてよき大群に出會午前中僅に三時間半で六七百匁鰹六千尾をきん綫し尙幾らでも釣れるが氷不足と一活洲一に容いきれないため歸航したが水溫は二十三度色薄淺黃で不良の方であると而して北海道より北萬二十浬位の所は水溫も低く魚群はこの邊より北に進まぬ樣で一般漁船はこの附近にあると

殉職者法會

好間炭礦の舊盆

石城郡好間村古河炭礦では舊盆の十四日をトし午後九時から同村大作長壽院に於て殉職者の法要を營むため僧侶十人を招き施行する筈であるが尙十四、五の兩日は同礦に於て活動寫眞を映寫し盆踊に賑ふ筈である

救世軍の講演

平町六丁目救世軍分隊では來る十八、九の兩日救世軍特別集會を開催し兩日午後八時から同集會所に於て東北聯隊長田中校の人生と宗敎、基督の敎とは何か？の講演がある筈

坑夫の罪業

逃走中捕はる

湯本町天王崎入山第五坑後山夫田村郡大越村生れ高橋行春(三〇)は去月二十七日午後七時半同所竹森ろく方の外戶を破つて忍び込み金品を物色中發見誰何され逃走中の處十七は夜平署に捕はれ目下取調中

好間堰議員選擧

來る廿七日平と好間で

相當猛烈な競爭

好間堰水利組合議員選擧は來る二十七日午前八時より午後四時まで平町、好間村の各町村役場で執行するが有權者は平町八十一名、好間村百九十六人で定員十名(平二名、好間八名)に對し野心家の策動もあり相當猛烈な運動を豫想されてゐる

責任販賣

去る三月以來弊店發賣の大人革靴にて萬一三ケ月以內に破損せし物有之候節は御遠慮なく御持參被下度即時新品ご御取替申すべく候

平 四丁目

ツルヤ

所員採用

平町及郡山ニ勤務スル調査ニ趣味ヲ有スル至誠至勤ノ御方ヲ求ム

御希望者ハ至急履歷書ヲ左記ヘ御送リ下サレタシ

平局私書函第六號

東京商業興信所

平出張所

支所 郡山

根本園の盆賣出し

先づ健康一杯の喫茶元氣漲る

お盆の御引物には安全第一、根本園のお茶が尤も經濟適品

◈桐箱入◈罐入等種々

澤山取揃へ良品大勉强いたします

◎家庭ホウジ茶盆賣出麥湯兼用

賣出し中粗景呈上仕候

平町四丁目農工銀行脇

根本園

香味佳良

根本園の茶

卸小賣

內科診療

消化器病科　呼吸器病科

小兒內科　一般內科

入院應需(自炊ノ便アリ)

平町鼠坂

渡邊內科醫院

電話一六一番

◈內臟外科

◈外科一般

◈花柳病科

入院隨意　自炊の便より

平町田町大通り

安齋外科醫院

電話四三六番